

教員養成課程における学校安全教育への意識とニーズ

飯嶋 香織（関西国際大学）

本日の概要

- 学校安全と学校安全の体系
- **新学習指導要領の防災教育**
- 防災教育から考える安全教育の問題点
- **安全と教育のはざまで 組体操の現状から考える**
 - 重大事故の発生が続く
 - 問題視される組体操
 - ではなぜ中止にしないのか？ 教員、児童生徒 保護者の考え方
 - 教育上の意義？
- **教職課程の学生への示唆**

学校安全と学校安全の体系

- 学校健康教育の三領域
学校安全 学校保健 学校給食
 - 学校安全における3領域
 - ・ 生活安全・交通安全・災害安全**生活安全：** 日常の学校活動でのけがを防止したり、事件や事故、不審者から子どもたちを守ったりする活動
 - 交通安全： 省略
 - 災害安全： 防災教育に関する領域
- 学校安全の体系（安全教育・安全管理・組織活動）

災害安全： 防災教育に関する領域の変化

- 災害発生時にどのように身を守るか
例)火災発生時の避難 地震発生時の対応
↓
- 災害を引き起こす自然現象（ハザード）の理解や災害への備えといった要素も追加
- 小・中学学習指導要領（平成29年告示）
防災教育の教科化は実現せず
- 「防災教育のミニマム・エッセンシャルズ」の3領域
「ハザードの理解」「備え」「対応」

諏訪清二,2020「防災教育の Teppan 本気で防災教育を始めよう」
明石スクールユニフォームカンパニー

学習指導要領での防災教育の位置づけの変化

「現代的な諸課題に関する教科等横断的な教育内容に

- 「伝統や文化に関する教育」
- 「主権者に関する教育」
- 「消費者に関する教育」
- 「法に関する教育」
- 「知的財産に関する教育」
- 「郷土や地域に関する教育」
- 「海洋に関する教育」
- 「環境に関する教育」
- 「放射線に関する教育」
- 「生命の尊重に関する教育」
- 「心身の健康の保持増進に関する教育」
- 「食に関する教育」
- 「防災を含む安全に関する教育」

「小・中学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」 2017年3月

防災を含む安全に関する教育
(現代的な諸課題に関する教科等横断的な教育内容)

例) 小学校「体育科」「特別の教科 道徳」「理科」「社会科」
「家庭科」「生活科」「特別活動」

[illegible]

学習指導要領：「安全」「災害」「防災」などの表記がある

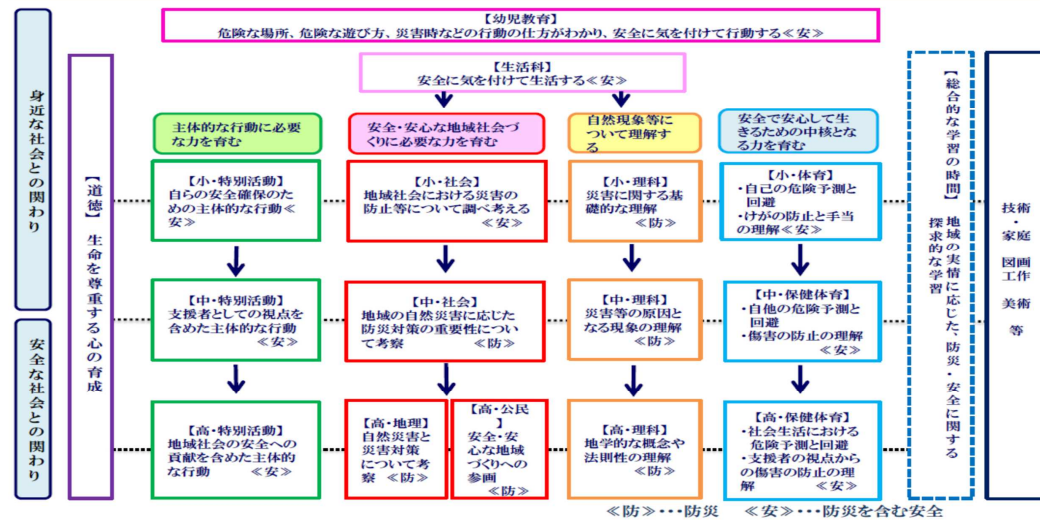
教科	内 容	教科	内 容
社 会	3年 「地域の安全」	体 育 (保 健)	5年6年 「けがの防止・交通事故・身の回りの生活の危険」 「危険の予測や回避の方法」
	4年 「自然災害・今後想定される自然災害・地域の自然災害」		
	5年 「自然災害・対策や事業・国土の保全・防災対策」 「地震災害、津波災害、風水害、火山災害、雪害」		
	6年 「自然災害からの復旧・復興」		
理 科	5年 「流れる水の働きと土地の変化」「天気の変化」 *「自然災害についても触れること」	特別の教科 道 徳	全学年 「安全」
	6年 「土地の作りと変化」 *「土地は、火山の噴火や地震によって変化すること」 *「自然災害についても触れること」		
生 活	1 年2年 「通学路の様子やその安全・安全な登下校」 「安全に生活・安全に気を付けて」	特別活動 学級活動	全学年 「健康安全」「健康で安全な生活態度」「事件や事故、災害等から身を守り安全に行動」
家 庭	5年6年 「健康・快適・安全で豊かな食生活、衣生活、住生活」	特別活動 学校行事	全学年 「健康安全」 「事件や事故、災害等から身を守る安全な行動」

引用 諏訪清二 学校の防災教育 ～新しい学習指導要領の下で～ 【第2回】 「学習指導要領」と「防災教育」
2020/04/14

<https://moshimo-stock.jp/article/entry/2020/04/school-edu-2/>

引用 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/077/siryo/_icsFiles/afieldfile/2017/03/28/1382429_5.pdf

教科等横断的な視点から教育課程を編成



千葉県作成の安全教育の手引き

自助と共助という考え方：学校段階が上がると共助へ重点が移る

児童生徒等の発達段階における安全教育で育てる力		
発達段階	自助 (日常生活全般における安全確保)	共助 (安全・安心な社会づくり)
幼稚園	・危険な場所、危険な遊び方などが分かり、安全な生活に必要な習慣や態度を身につける。 ・事故発生や災害時、教職員や保護者の指示に従い行動できる。	・危険な状態を発見したとき、近くの人に伝えることができる。
小学校 低学年	・安全に行動することの大切さを理解し、安全な生活に必要な習慣や態度を身につける。 ・身の回りの危険に気づき、安全な行動ができる。	・危険な状態を発見したとき、近くの人に伝え、指示に従い行動することができる。

途中省略

中学校	・地域の安全上の課題を踏まえ、安全な行動をとるとともに、防犯・防災への備えや的確な避難行動ができる。	・自他の安全に対する自己責任感を持つことができる。 ・心肺蘇生法等の応急手当を身につけ、実践できる。 ・防災や災害時のボランティアの大切さを理解し、参加できる。
高校	・自他の安全状況を適切に評価し、安全な生活を実現するために適切に意思決定し行動できる。	・友人・家族・地域等の安全に貢献する大切さがわかる。 ・心肺蘇生法などの応急手当の技術を高め、実践できる。 ・安全安心な社会作りに向けて、地域の安全に関する活動や災害時のボランティア活動等に積極的に参加できる。

防災教育から考える安全教育の問題点

- 教科横断的といった場合に主たる担当者の不在？
各教科の教育内容に寄せ集めのよう教育で 安全教育や防災教育の成果が出るのか？
内容を盛り込みすぎている
「安全」が中心？「防災」が中心
⇒ 定まらない視点
- 学校の施設の問題でも同様の傾向がみられる
危険に対する意識や安全に関する考え方が教員間で共有されていない
危険に対する感覚の児童・生徒と教員との差

主に学校施設面での調査研究
国立教育政策研究所 令和元年度・令和2年度プロジェクト研究,2021年3月

学校安全は教育活動のすべてにかかわるが、安全とはなにか？という共通の認識は どのようになっているのだろうか？

安全と教育のはざまで 組体操の現状から考える



例)重大事故・死亡事故も発生 奈良県教育委員会「組体操による事故の概要」

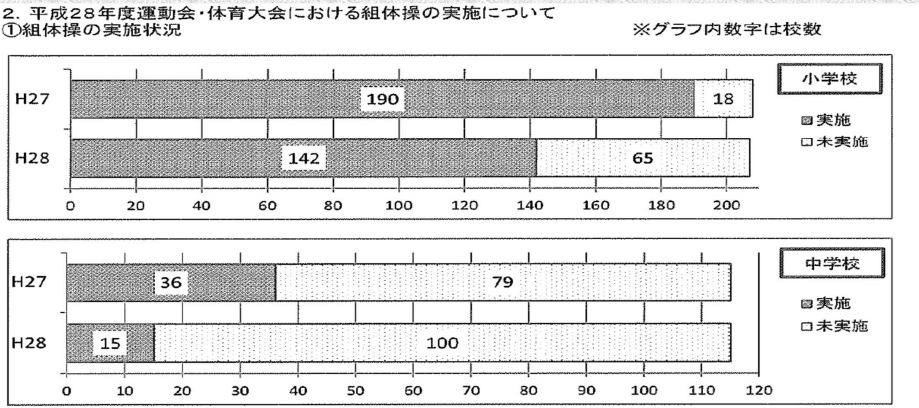
組体操による災害共済給付の支給件数

組体操で平成4年,平成8年に死亡事故が発生

	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	
死亡見舞金(件)	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
障害見舞金(件)	3	4	3	1	5	2	1	0	0	2	5	2	1	0	2	3	5	0	2	0	3	1	4	
医療費(傷害・疾病)(件)	データなし																				8264	8886	8562	8596

※死亡に関しては、平成4年以前に下記の件数発生している
昭和46年 1件、昭和49年 1件、昭和50年 1件、昭和51年 1件、昭和63年 1件

奈良県-死亡事故があっても組体操は継続



引用 奈良県教育委員会
http://www.pref.nara.jp/secure/160591/28_18th_tah08.pdf

例)兵庫県教育委員会
平成30年度公立小・中学校における体育大会(運動会)での組体操事故等調査のまとめ

中学校	実施校数	ピラミッド				タワー			
		事故件数	重傷件数<内数>	実施校数	事故件数	重傷件数<内数>	実施校数	事故件数	重傷件数<内数>
実施 段数	2 段	1校 (0校)	0件 (0件)	0件 (0件)	13校 (13校)	4件 (6件)	0件 (2件)		
	3 段	16校 (15校)	1件 (0件)	0件 (0件)	51校 (46校)	13件 (13件)	2件 (2件)		
	4 段	12校 (10校)	1件 (2件)	0件 (1件)	14校 (22校)	0件 (7件)	0件 (0件)		
	5 段	40校 (49校)	14件 (33件)	1件 (1件)	25校 (30校)	7件 (8件)	0件 (0件)		
	6 段	23校 (13校)	6件 (1件)	0件 (0件)					
	7 段	28校 (36校)	3件 (5件)	0件 (0件)					
	8 段	7校 (12校)	8件 (9件)	0件 (0件)					
	9 段	1校 (0校)	0件 (0件)	0件 (0件)					
	10 段	0校 (0校)	0件 (0件)	0件 (0件)					
	合計	128校 (135校)	33件 (50件)	1件 (2件)	103校 (111校)	24件 (34件)	2件 (4件)		
平均段数		5.45段 (5.60段)			3.50段 (3.62段)				
H29段数比較		同じ	96校 下げた	31校 上げた	15校	同じ	102校 下げた	28校 上げた	12校

1 平成30年度の実施状況 ※ ()内はH29調査

区分	小学校	中学校	合計
学校数	586校 (588校)	260校 (260校)	846校 (848校)
実施校数	493校 (509校)	142校 (147校)	635校 (656校)
実施率	84.1% (86.6%)	54.6% (56.5%)	75.1% (77.4%)

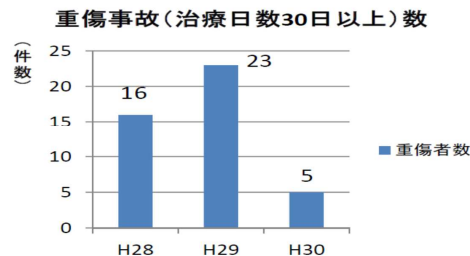
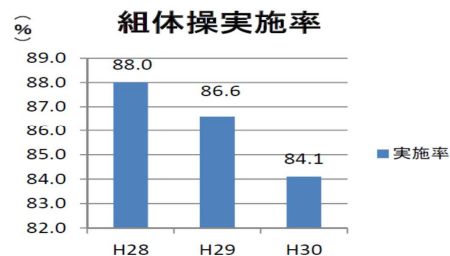
2 ピラミッド・タワーの実施状況 (段数は各学校で演技する最高段数である)

小学校	ピラミッド			タワー		
	実施校数	事故件数	重傷件数<内数>	実施校数	事故件数	重傷件数<内数>
実施 段数	2 段	12校 (16校)	0件 (1件)	0件 (1件)	66校 (62校)	3件 (1件)
	3 段	282校 (266校)	11件 (11件)	0件 (1件)	174校 (208校)	7件 (13件)
	4 段	50校 (62校)	4件 (3件)	0件 (0件)	112校 (103校)	9件 (6件)
	5 段	51校 (49校)	3件 (3件)	0件 (0件)	9校 (18校)	0件 (1件)
	6 段	25校 (40校)	3件 (2件)	0件 (1件)		
	7 段	12校 (9校)	0件 (0件)	0件 (0件)		
	8 段	0校 (0校)	0件 (0件)	0件 (0件)		
	合計	432校 (442校)	21件 (20件)	0件 (3件)	361校 (391校)	19件 (21件)
平均段数		3.61段 (3.68段)			3.18段 (3.20段)	
H29段数比較		同じ	321校 下げた	98校 上げた	74校	同じ

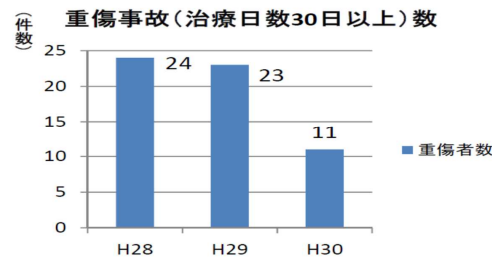
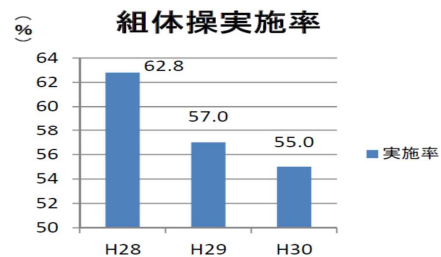
4 重傷事故内容

	種目	演技人数	演技位置等	負傷の種類	原因	発生市町
小 学 校	タワー	3	2段タワー上段	左腕骨遠位端骨折	安全に実施できる指導体制が構築できなかった	姫路市
	サボテン	2	上段	左尺骨骨幹部骨折	安全に実施できる指導体制が構築できなかった	伊丹市
	サボテン	2	土台	左膝内障	安全に実施できる指導体制が構築できなかった	伊丹市
	サボテン	2	上段	右手関節舟状骨骨折	安全に実施できる指導体制が構築できなかった	宍粟市
	風車	2	上段	胸骨骨折	安全に実施できる指導体制が構築できなかった	伊丹市
中 学 校	ピラミッド	15	5段ピラミッド3段目	左膝打撲、左膝骨挫傷	安全に実施できる指導体制が構築できなかった	加古川市
	タワー	10	3段タワー2段目	左鎖骨骨折	ルールや約束事が守れなかった	尼崎市
	タワー	10	3段タワー土台	左腕骨折	安全に配慮した段階的指導ができていなかった	丹波市
	電柱	2	上段	両手手根骨骨折	安全に実施できる指導体制が構築できなかった	西宮市
	電柱	2	上段	左腕骨遠位骨折、右腕骨骨端線損傷	安全に実施できる指導体制が構築できなかった	西宮市
	電柱	2	上段	左腕骨骨折	安全に実施できる指導体制が構築できなかった	姫路市
	飛行機	3	上段	右踵骨折	ルールや約束事が守れなかった	川西市
	隊形移動	1		左足中指骨折	ルールや約束事が守れなかった	加古川市
	2段おきこ	15	土台	鼻骨骨折	安全に実施できる指導体制が構築できなかった	川西市
	風車	2	土台	肘頭骨折	安全に実施できる指導体制が構築できなかった	多可町
	帆掛け船	3	土台	左手関節捻挫	ルールや約束事が守れなかった	たつの市

<小学校>



<中学校>



内田良氏の発言

- ・組体操の危険性を主張し、現在のムーブメントを主導したのは学校におけるリスク・マネジメントを研究する内田良(名古屋大学教育学研究科准教授)氏
- ・内田良氏は組体操だけではなく、柔道事故や水泳事故、運動部活動における体罰や事故への問題提起をインターネット上で展開

- ・「組体操は危険だからやめたほうがよい」というステレオタイプのイメージが学校を含めた世論全体を動かしているように感じられる。

同時に児童の体力の2極化で危険度の増大

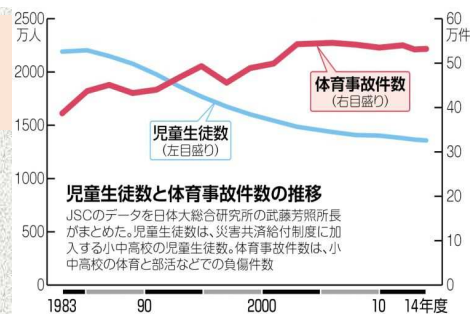
平成28年度広域科学教科教育研究 研究成果報告書 研究代表者 鈴木 秀「学校教育に見られる「伝統」の継承に関する研究 一運動会・体育祭に見られる「組体操」を焦点に」東京学芸大学

- ①児童・生徒の体力低下での危険度の増大
- ②組体操の過熱 (2010年頃から)

②ネット上の動画投稿サイトの普及で、教師らが他の学校の投稿を参考に、高く組む方法をまねするようになったのが一因？

②学習指導要領から記載がなくなった後も、組み体操は国による教育的意義の位置付けやルール整備がないまま運動会や体育祭の花形種目として伝統的に続いてきた。

引用 東京新聞 <https://sukusuku.tokyo-np.co.jp/education/3488/>



①児童生徒の体力低下による体育の事故発生率の増加傾向

「巨大組体操」を考える視点 やめられないのか、やめないのか？

- ・学校はなぜ「巨大組体操」をやめられないのか
保護者が望んでいるから？
教員が望んでいるから？
- ・安全に実施すればよいという立場
現在の組体操の在り方を基本的に継承して安全に実施
- ・安全な組体操
現状の組体操とは、全く別物？

感動「一体感」「達成感」という感動が
安全よりも優先？という現状



掲載日

見出し

2005年05月09日

【子どもの心】小学校で（6）実感させたい命の重み（寄稿）

東

5年生で受け持ったクラスは、「死」や「殺す」という言葉を簡単に口にする子どもばかりだった。勝ち気なFも例外ではなく、彼は何か気に食わないことがあると、友達に「お前なんか死ね!」と言い放った。精子と卵子の出会いから始まる生命の奇跡や、小児がんと闘う子どもたちについての学習などを通じ、「命の重み」を伝えようとした。

小学生が加害者と被害者になった殺人事件も取り上げた。多くの子どもたちが「命の勉強をしていれば起きなかったのに」と言うなかで、Fだけは「命の大切さはわかるけど、自分を見失ったらキレてしまうかもしれない……」。Fの言葉にハッとさせられた。きれいごとではなく、もっと実感として「命の重み」を伝えなければならない。

運動会では組体操に挑戦した。背中や肩に乗る友達の重みに、「痛い」「苦しいよ」と口々に訴える子どもたち。「それが命の重みなんだよ」と私は伝え、励ました。Fは泣き言を言わず、友達の重みに耐えていた。大きなタワーが完成した時、真っ先に歓声を上げたのはFだった。

学習発表会では、ソーラン節に合わせてパワフルに歌い踊る「ソーラン踊り」に取り組んだ。全身を動かして表現することで、自分の命の鼓動を感じてほしかった。踊り終え、ハアハアと息を切らすFたちに「今、みんなの命が輝いているよ」と伝えた。

Fはこう振り返った。「命の勉強をたくさんした。友達といろいろなことをしたのが一番勉強になった。おれには友達がいる。ケンカもするけど、友達の命は大切だ。だからおれの命も大切だと思った」

命の大切さを伝えるのは簡単ではないが、伝えることの重要性を私はFの言葉で確信した。（彰）◇筆者は男性教諭です。

5年生で受け持ったクラスは、「死」や「殺す」という言葉を簡単に口にする子どもばかりだった。勝ち気なFも例外ではなく、彼は何か気に食わないことがあると、友達に「お前なんか死ね!」と言い放った。精子と卵子の出会いから始まる生命の奇跡や、小児がんと闘う子どもたちについての学習などを通じ、「命の重み」を伝えようとした。

小学生が加害者と被害者になった殺人事件も取り上げた。多くの子どもたちが「命の勉強をしていれば起きなかったのに」と言うなかで、Fだけは「命の大切さはわかるけど、自分を見失ったらキレてしまうかもしれない……」。Fの言葉にハッとさせられた。きれいごとではなく、もっと実感として「命の重み」を伝えなければならない。

運動会では組体操に挑戦した。背中や肩に乗る友達の重みに、「痛い」「苦しいよ」と口々に訴える子どもたち。「それが命の重みなんだよ」と私は伝え、励ました。Fは泣き言を言わず、友達の重みに耐えていた。大きなタワーが完成した時、真っ先に歓声を上げたのはFだった。

学習発表会では、ソーラン節に合わせてパワフルに歌い踊る「ソーラン踊り」に取り組んだ。全身を動かして表現することで、自分の命の鼓動を感じてほしかった。踊り終え、ハアハアと息を切らすFたちに「今、みんなの命が輝いているよ」と伝えた。

Fはこう振り返った。「命の勉強をたくさんした。友達といろいろなことをしたのが一番勉強になった。おれには友達がいる。ケンカもするけど、友達の命は大切だ。だからおれの命も大切だと思った」

命の大切さを伝えるのは簡単ではないが、伝えることの重要性を私はFの言葉で確信した。（彰）◇筆者は男性教諭です。

5年生で受け持ったクラスは、「死」や「殺す」という言葉を簡単に口にする子どもばかりだった。勝ち気なFも例外ではなく、彼は何か気に食わないことがあると、友達に「お前なんか死ね!」と言い放った。精子と卵子の出会いから始まる生命の奇跡や、小児がんと闘う子どもたちについての学習などを通じ、「命の重み」を伝えようとした。

小学生が加害者と被害者になった殺人事件も取り上げた。多くの子どもたちが「命の勉強をしていれば起きなかったのに」と言うなかで、Fだけは「命の大切さはわかるけど、自分を見失ったらキレてしまうかもしれない……」。Fの言葉にハッとさせられた。きれいごとではなく、もっと実感として「命の重み」を伝えなければならない。

運動会では組体操に挑戦した。背中や肩に乗る友達の重みに、「痛い」「苦しいよ」と口々に訴える子どもたち。「それが命の重みなんだよ」と私は伝え、励ました。Fは泣き言を言わず、友達の重みに耐えていた。大きなタワーが完成した時、真っ先に歓声を上げたのはFだった。

学習発表会では、ソーラン節に合わせてパワフルに歌い踊る「ソーラン踊り」に取り組んだ。全身を動かして表現することで、自分の命の鼓動を感じてほしかった。踊り終え、ハアハアと息を切らすFたちに「今、みんなの命が輝いているよ」と伝えた。

Fはこう振り返った。「命の勉強をたくさんした。友達といろいろなことをしたのが一番勉強になった。おれには友達がいる。ケンカもするけど、友達の命は大切だ。だからおれの命も大切だと思った」

命の大切さを伝えるのは簡単ではないが、伝えることの重要性を私はFの言葉で確信した。（彰）◇筆者は男性教諭です。

読売新聞2005年5月の記事より

感動を生み出す「装置」としての組体操

命の大切さを伝える？

本文は次ページに

組体操の課題(1)

組み体操なぜ事故突出？ 「達成感ある」親も期待

2017/11/14 05:45神戸新聞NEXT

組み体操事故が全国でも突出して多発していることが明らかになった兵庫県内の小中学校。学校現場では組み体操を取りやめる動きがある一方、なお高い段数のピラミッド演技を続ける学校があるなど、対応がばらつく。「達成感がある」といった生徒の声や、期待を寄せる保護者の思いも背景にあるが、有識者からは「いつ重大事故が起きても不思議ではない」と危惧する声も上がっている。

兵庫県南部にある公立中学校では9月、体育大会の組み体操で、男子生徒たちが「8段ピラミッド」を披露した。

全国的には、ピラミッドの段数を規制したり、やめたりする動きがある中での実施。同校の50代男性教諭は「教員にも葛藤があったが、培ってきた伝統がある。『先輩がやってきたことなので、やらない』という生徒の気持ちも大きい。保護者や地域の反対もなかった」と明かす。見守る教員を増やすなどの対策を講じたという。

神戸市立高取台中学校（同市長田区）でも、実施を求める声に応え、低い段数のピラミッドなどを続けていた。有本直道校長（60）は「高さでなく美しさが大事。どんな技でも事故は起こり得るので、大技だけでなく、太ももの上で立つ2人技『サボテン』などにも注意を払っている」と強調する。

一方、組み体操などをソーラン節に切り替えた神戸市立本庄中学校（同市東灘区）。生徒や保護者から復活を望む声を受けて検討したものの「教員側の準備不足がある。教員研修を徹底してから」と慎重な姿勢だ。

来年、長男が中学の組み体操に参加するという三木市の女性（41）は「体育大会の見せ場でもあるし、楽しみ」と話すが「ピラミッドの一番上にわが子が乗ったらと思うと、ひやひやする」と不安な心情を吐露。

事故状況を調べた大阪経済大の西山豊教授は「改善されつつあるとはいえ、一つの県がこれだけ突出しているのは異常で、大事故につながりかねない。『今まで事故が起こらなかったから大丈夫』という気持ちを捨て、ゼロから対応を見直すべきだ」と指摘した。

（上田勇紀、井上 駿）

前ページの内容

5年生で受け持ったクラスは、「死」や「殺す」という言葉を簡単に口にする子どもばかりだった。勝ち気なFも例外ではなく、彼は何か気に食わないことがあると、友達に「お前なんか死ね!」と言い放った。精子と卵子の出会いから始まる生命の奇跡や、小児がんと闘う子どもたちについての学習などを通じ、「命の重み」を伝えようとした。

小学生が加害者と被害者になった殺人事件も取り上げた。多くの子どもたちが「命の勉強をしていれば起きなかったのに」と言うなかで、Fだけは「命の大切さはわかるけど、自分を見失ったらキレてしまうかもしれない……」。Fの言葉にハッとさせられた。きれいごとではなく、もっと実感として「命の重み」を伝えなければならない。

運動会では組体操に挑戦した。背中や肩に乗る友達の重みに、「痛い」「苦しいよ」と口々に訴える子どもたち。「それが命の重みなんだよ」と私は伝え、励ました。Fは泣き言を言わず、友達の重みに耐えていた。大きなタワーが完成した時、真っ先に歓声を上げたのはFだった。

学習発表会では、ソーラン節に合わせてパワフルに歌い踊る「ソーラン踊り」に取り組んだ。全身を動かして表現することで、自分の命の鼓動を感じてほしかった。踊り終え、ハアハアと息を切らすFたちに「今、みんなの命が輝いているよ」と伝えた。

Fはこう振り返った。「命の勉強をたくさんした。友達といろいろなことをしたのが一番勉強になった。おれには友達がいる。ケンカもするけど、友達の命は大切だ。だからおれの命も大切だと思った」

命の大切さを伝えるのは簡単ではないが、伝えることの重要性を私はFの言葉で確信した。（彰）◇筆者は男性教諭です。

組体操の課題(2)

木村 草太「これは何かの冗談ですか? 小学校「道德教育」の驚きの実態 - 法よりも道德が大事なの!?!」2016

https://gendai.ismedia.jp/articles/-/47434

その主人公、つよし君は、組体操に熱心に取り組み小学校6年生だった。そんな彼が、人間ピラミッドの練習中に事故にあう。（広島県教育員会作成 道德の教材資料 現在は削除）

今日は運動会の前日。最後の練習だ。第の合図でだんだんとピラミッドができあがっていく。一段目、二段目。とうとうぼくの番だ。手と足をいつもの場所に置き（さあ決めてやる）と思ったしゅん間、ぼくの体は安定を失い、床に転げ落ちていた。かたに痛みが走る。ぼくはそのまま病院に運ばれた。骨折だった。ぼくは、目の前が真っ暗になったようで何も考えられなかった。

事故の原因は、わたる君がバランスを崩したことだった。わたる君はごめんと謝るが、つよし君は許すことが出来ない。そんなつよし君に、お母さんが次のように語る。

「一番つらい思いをしているのは、つよしじゃなくてわたるくんだと思うよ。母さんだって、つよしがあんなにはりきっていたのを知っているから、運動会に出られないのはくやしーい、残念でたまらない。でも、つよしが他の人にけがさせていた方だったらもっとつらい。つよしがわたるくんを許せるのなら、体育祭に出るよりも、もっといい勉強をしたと思うよ」

つよし君の心に、「今一番つらいのはわたるくん」という言葉が強く残る。そして、「その夜、ぼくは、わたる君に電話しようと思話器をとった」

という一文でこの教材は終わる。

インタビューでの内田良氏での回答

学校はなぜ「巨大組体操」をやめられないのか "保護者が望んでいるから"は本当か？
<https://toyokeizai.net/articles/-/83619?page=2>

けがが起きたときの学校の対応について

「巧妙だと感じるのが、誰かがケガをしても、「その子のために、みんなが一致団結するんだ」という物語をつくってしまうところ。よくあるのが、誰かが骨折で入院したりすると、クラス全員からの手紙を届けるんですって。それを読むと、親も子どももジーンとなって、すべてを忘れるっていう。すごい技術だなーと思って（苦笑）。」

組体操は、骨折はもちろん、場合によって死の危険もあるほど危険な競技だ。それを強要するなら、これらの疑問に誠実に答える必要がある。「クラスの団結力を高める」、「困難を努力で乗り越える」という程度の教育目的では、あえて、組体操という危険な競技を選ぶことを正当化することは不可能
木村 草太 <https://gendai.ismedia.jp/articles/-/47434>

令和2年(2020年)から

外部からの意見で結局は中止に？

「運動会・体育大会における組体操の禁止について」神戸市

年度は、スポーツ庁から「学校における体育活動中の事故防止等について」（7月5日）、市長から「組体操の実施見合わせに係る要請」（8月2日）が出され、「組体操が安全な状態で実施できないと判断する場合には実施を見合わせるよう」強く要請
<https://www.city.kobe.lg.jp/z/kyoikuinkai/kyoukasidouka/kumitaisoukinnsi.html>

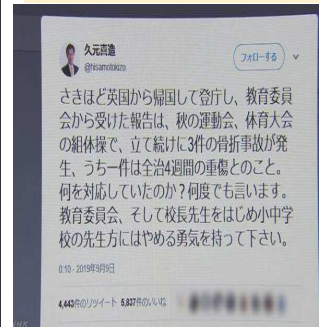
神戸市長 怒りのツイート

組み体操やめさせない教委に

2019年9月26日

<https://www.nhk.or.jp/politics/articles/statement/23351.html>

これに対してインターネット上では「勇気ある発言を支持します!」、「もう組み体操の時代ではない」などと、久元市長を支持する意見の一方、「僕は組み体操を通して、友だちと信じ合える気持ちが高まりました」と、組み体操を肯定する声も投稿されるなど、注目を集めています。
市の教育委員会は「各学校はすでに練習や準備を重ねており、すぐにやめるのは難しい。来年春の対応については、今後検討したい」と話しています。



安全と教育のはざままで 組体操の現状から考える

⇒ 教職課程教育への示唆

「感動」「一体感」「達成感」という感動の呪縛から解放は可能か？

・ 教職課程の学生に何を教えるのか？

- ①安全とは何か？定義のあいまいさ
学校事故を減らせばよいのか？
⇒危険を回避するためには危険を知ることが必要
- ②安全が必ずしも優先されていない現状をどう考えるのか？という教材
決定にかかわる複数のステークホルダー
教員
児童・生徒
保護者
教育委員会
学習指導要領(文部科学省)
- ③ 防災教育：クロスロードゲーム 「コミュニティ防災」

参考文献(順不同)

- ・ 内田良,2015『教育という病 子どもと先生を苦しめる「教育リスク」』光文社
- ・ 小丸 超,2020「組体操の社会学：リスクの問題から子どもの主体性の問題へ」駿河台大学教職論集, no.5, PP.21 - 36
- ・ 平成 28 年度広域科学教科教育学研究 研究成果報告書 研究代表者 鈴木 秀「学校教育に見られる「伝統」の継承に関する研究 一運動会・体育祭に見られる「組体操」を焦点にー」東京学芸大学
- ・ 諏訪清二『防災教育のテッパンー本気で防災教育を始めよう』（明石スクールユニフォームカンパニー）
- ・ 国立教育政策研究所 令和元年度-令和2年度プロジェクト研究,2021年3月『児童生徒の安全・安心と学校空間に関する調査研究』（報告書）